



特別
~12
1077
48





利
1077
4748



● 角總

私ハ總角トヤケリ 愚案奥ニ流ス

● 廿三歳 中納言

松權本ト同年ノ秋ヨリ

冬ニニテノ事ナ

秋宇治八宮一因忌法事ナ

源中納言訪宇治給事

● 名香系角總ナ

● 句文由公向語申始君流ナ

● 石出老人物流ナ 今夜留宇治給ナ

始君對面夕 曉陽始事

明日源中納言猷文公字治事

始君除服夕

源中納言渡字治正則老人物治事

始君心強夕

其夜宿字治老人川導源中納言身
入始君寢所事

始君起屏風治事

途中君

全實事夕

朝源中納言身又公始君事

始君之也奇

源中納言身身又文語字治身身身
又又源源中納言治事

八月廿八日彼辰結於日源中納言身身

身身又出字治事

源中納言始君物治事

身身又出始君物治事

身身又入中君寢所始君身源中納言此

まねとてしる

暁天海の中細言白文同車還京事

明日白文白文送宇治中君事

此使賜衣事

宇治中君三日夜餅事

源中細言送消息の中君事

とて奇

及深更白文系宇治中君事

案馬事

九月十日源中細言奉伴白文出京事

昔々文源中君の京宮事

源中細言又源中君の三茶事

は巻夕言のおとと右此句の後

とつるやありあやまらりたり

たよ様しはくらのら此事とて

ひらりとよみつてへまへ

十月一日昔々白文為紅葉山後道遙

宇治事

舟事

依中宮作志事

山道事

文獻以文以中志也 不出字法文
直攻京治事

始志中文未忍苦乃文書後治事
內中文史食苦乃文字治事思行師
氣文思也

危大治殿六君也嫁苦乃文治事
苦乃文系女一文以方見在五結治事
苦乃文久不出字治事
源中細言衆字治事

始君病臨全對面也
明日聊對面歸治事

中君盡夜復見故文治事

十月亦日苦乃文秋消苦乃字治事

十一月始君病臨同前也

源中細言訪治事

作阿因梨合鈔新也

阿因梨及思存文為追者鈔常不經治事

源中細言與中君詠奇事

源中納言藤原治房

思兼系事治事 物治君給

定治始系平去

日葬送事 中君無慕事

菅原文仲陰中後定治治

宿定治事 中系歸物足系事

源中納言有建物治

明日菅原文還系治事

年菅原中納言欽攻回

出部卿 文可身後中系於系二套院

用意事

角結

花 以奇并初為卷名 秘

何方

あけまははあまらさう紙結ひあて
お新しあよとりとあかん

松初よいあやまうう紙あみれに
とりあしとありてひかりりり
あやまらあてあやまら

花

あやまらあは二わり童とあけまら
とりあはあまらあやまら
又車をくた糸あてくみてあやまら

もあけまはれとつふばあをまはれいと
あてをらりとつふて蕙亦歳乃秋
より冬もこの事とつふて

^秘あけまはれ神系よの総角とつふて童
乃幼之催ふる亦あ角総とつふて是の
系あて結ふとつふては春名は催ふる系
と見つふて蕙亦三六秋より冬もあ
乃事とつふて

私言天皇は元服の時童系とつふての

西出立此やうとつふて総角とつふてあはれも
童のあては海花名群花は是の
名総角とつふては角総とつふて
^群蕙亦三六の権中は亦三六は是のゆゑ
は春も秋より冬もあはれも亦三六は是のゆゑ

あまの年乃つる是はあまの風もはれは
いとくはれく

秘

けいふよとまみあやのり年法をぬれや
文薨しぬひてしつたぬれぬと海に
意のあうかあやのり五年つりぬ
うらふ文たつうひぬぬいりりさみ原
はくそれ事つりせまふ

花

うんそくろ文を年七八月廿日にう渡さ
まふあうー因忌の西仏事らうん
とゆくそれ事つりぬそり
八文一回事へ 昇美

秘

あはれいけしうれ事終れり

秘

空法のものへ装束衣經にをりぬ
ちうへー法事上八法をりぬ

花

經のうりぬ札の覆ふぬの事へ
るこゆめし志さしひぬ

秘

あはれいけしうれ事終れり
とせうり是ハ人れりまきや

かへつとらぬしぬ

秘

意のしぬれりぬ

ふくしちまうておひて

^茶茶の字はくわんりて

いぬしゆきすくまふのゆきふい

^茶着服とゆきまふ時の事く

私を衣れまわしあまふの衣裳

まじりてふひをりまふまふ

又そのかゝのゆきゆきまふまふ

あまふ

まがしめてひきまふりて

は

花

名香糸の香ノ机四角に結ぶ糸之

まはくの音とてはなみてふま

糸少てひきひけてはなま

ひきひ

松

名香糸少て結ぶりてはなま

河海流てはな名香はなま

糸少て結ぶりてはな名香はなま

はなまはなま又在河海

美

河海花香の美名別ては河海流りて

花^{ケツク}之の心糸より流く糸糸うへ

かろしと包あつらふさうらかろし

力^{ハチ}とうしと折しよさうぬれみれ

かろしと包あつら物あそありさか

糸^ハ此縁ありしりしりあふとりしと

ちよよし

門^ハ号 必始意よりかろしりら

らひまよ折あし

中^ハ意しりらかろしひまよむち君乃

口^ハとさみへ

ひらひあけらありれ

糸^ハ成ころ物へ

糸^ハとあ子うみとのうらとらとを

うし時ありしあひらうか

延^ハ在式縁柱とくさうあつらう

糸^ハくらうくあつら

糸^ハ成くらあつら縁柱とくさうあつら

糸^ハとあつら物へくさうあつら

一茶 念息 多々々 女式声 ソオス

系成く多々々 延式 延式とひきり

未劫し令神祇令才六凡天會即位

吾大幣者三月内令修理既

金子ノミ 金水相 金ノ絲柱奉伊摺ノ神七日

そのあしこて

意 意の若香乃系とひきり

より海と玉よりあつらん

意 意の系成よりあつらん

くつり

よりあつらん

よりあつらん

河 伊勢集七名后若山朝时

七名后のうせはつる時伊勢よりあり
人あつりてゆきとれとて
志とちり人海よりそゆけ共い
あふきとて始とてい系よりそ
い海にゆけおんよりありてそとゆき
いいとせとれい志とちり人よりありて
ちくちりこちと系よりそ

伊勢のうせはつる時

二八御のつらきとてい

一本御の女房とてつらきとてい

日条大御の新撰髓腰云のこの中
君とてい

本朝文粹云徒洗弹琴者同卷稱多
湯信謂貴女為湯蓋取史人女御
至藤相公兼弁官故稱喜女之菅家
御作慰小男女 以上河海

うら此人とてい
御君とてい

物とあるにてもはるべきこと世の
の別とてい

何 糸よよふ物とあるにあらはれり
りそくとおのふゆかうれ

秘 非もれら申之別方いふはる物と
古今の物ありわくありあり

昇 月奇古今の物ありわくありあり家
集め物とあるにわくありあり
事多し

私益好法師つぎく集め物と
ありありと源氏物語ありあり

とあり

花 世々のものこれを生別とされ
新しやしてある世にありあり
ありありこれの非もれら申之別
ありあり

花 花鳥此花と同

水とあるにてもはるべきこと世の

秘

新文ののりとは何因習とて甚志し中讀し

まよふ所なり

かゝるて始つる硯の成りてよ

葉

葉新文の葉とて此より

葉

あまの葉とて此法はひにや何はあまの葉とて

は

尾角 日本紀 卷 催馬系

催馬系品わけすはあひろりやさり

て移されしとまらひあひまきりかより

あひまきり今葉いろりりハ八尺より

ゆりてハ系れさりハく人のさりて

移らるる人さるる 定家や奇やと

かゝるしとてしすこりたる葉りゆ

ちにあけまはのりあひのきん

奇

名香と系成わけまはるるにじとひさ

公みの催る示の奇れはよとまらひあ

ゆるやまののりともこり

秘

葉れ我々のりのめりしとて催る示れ

うたにまらひあひまきりかよりあひに

きり此の心又名香々糸成角縁よ結ひ
つれいそれとさうあけよ此のじやう
進もうやうよとりあつんとて 美昇
いあをまはひの吉事やと用かじよひ
而い追音のそごトあ大君れよとの
あつり

まいのとうゆさつれと一

大君れ心 美
あまこトトよつとせら
うゆさつれと

大君

あまこあはら此海れまの結よあはら此結り心かじよん

此結よ結りくとじやうつとさああてとあ一と
私海のおれよのまらさやうにじよひと
ああくれよあにじあうま結りくと
じやうつんとさうとて

美

早世ああつとらんつりて奇れ風神れよ
うゆさつれと

あまの心何とさうあまのまにあつれあま

は右

行あはらまのさうあまのまのまをそあつれ

河原へはの流るせん

兼 同奇と川 花は 意は 心は ちりばちり

兼 川方へ 進み 糸に ともり ちりばちり

兼 川方 同 あり 糸の 糸は 何の ことか

兼 意の 口は ちり

兼 川の 水は 流る ちり

兼 意の 心は ちり

兼 意の 心は ちり

兼 意の 心は ちり

松大悪の ちり

よ 意の 心は ちり

意の 心は ちり

白文の 心は ちり

の 心は ちり

兼 意の 心は ちり

兼 白文の 心は ちり

兼 意の 心は ちり

兼 意の 心は ちり

るうく——前の初まの事しうま
やうにうまうまうまうま

世のありさうまうまうまうま

大志れ世との多別とたせんとさうく

うまうまうま

おれさうり味をうまうま

うまうまうま

意の表裏うまうまうまうま

——くまうまうまうまの多別とた

せぬをうまうまうま

とまかきとたうまうま

大志れ世との多別とたせんとさうく

中志れ世との多別とたせんとさうく

世との多別とたせんとさうく

大志れ世との多別とたせんとさうく

大志れ世との多別とたせんとさうく

大志れ世との多別とたせんとさうく

大志れ世との多別とたせんとさうく

いし
秘しとさういごあふか
しつさうかららふを交は事此
めとのゆひせうし
かたふを授めてさうさうか
おりのゆひく
秘今さうさうまらふを
さうさうとせうし
さうせんさうさう
のさうの事とさう

いし
秘いしとさうし
さうさうとせうし
これらり中君此事
えん
秘いしとさうし
さうさうとせうし
さうさうとせうし
あ
秘いしとさうし
さうさうとせうし

さきさきわくにわたりあびて

^秘 意のふくまきやもつらうし事なまむた

いのちひめくさ事うらうし

うらう路いこののられ世え橋の

^秘 意の祠 ねやれんよれまて

私年東あまへ集りあし事いゆは

入らうその事うらうし

物いれまきにまうらうり

^秘 古文の西東いけい事あぬ事逢れり

私意よらうゆをせうんうし古文

作しうし

おれいとううらうりあひ

是ハ八宮のそくし事いけい事

所いれまて

婚えられれ

おれいとういれまていけい事

是ハ婚君かりのあし事いれ

向はやしうらうし

世中は少成志じりつこまうつら成
おの志のじりつこま成
一平ら志じりつこま成
家成れありさ成と成り成奇よ
心さ成あ成

世のくも成りつこま成
世らあ成意と成志と成わ成
こ中成さ成りつこ成
こ成りつこ成

えの成事と成志と成成
白成りつこ成ら成事と成
あ成ひ成あ成
意のく成りつこ成白成成
こ成ら成りつこ成成
こ成

おのりしけ成事成後成
前よ成りつこ成成
えんと成事成成

おんはつらみしつらみあひ

^必りしつらみしつらみあひ

まのつらみしつらみあひ

はつらみのつらみしつらみあひ

しつらみしつらみあひ

まのつらみしつらみあひ

しつらみしつらみあひ

しつらみしつらみあひ

しつらみしつらみあひ

しつらみしつらみあひ

^必しつらみしつらみあひ

ありしつらみしつらみあひ

^必しつらみしつらみあひ

しつらみしつらみあひ

しつらみしつらみあひ

しつらみしつらみあひ

^必しつらみしつらみあひ

しつらみしつらみあひ

美

且お別よりうきうきの方此世心なまれん
ましてよまへ心このひきまをいあはれ
いあはれと兼れこころいふあはれと兼れ
兼れと兼れこころいふあはれと兼れ
こころいふあはれと兼れ

わくわくあはれと兼れと兼れと兼れと兼れ
何のもれりしと兼れと兼れと兼れと兼れ

兼

あはれ心と兼れと兼れと兼れと兼れ
うきうきと兼れと兼れと兼れと兼れ

えんえん七条此世のせむつり時侯

うきうき

林のりみらと兼れと兼れと兼れと兼れ

うきうきと兼れと兼れと兼れと兼れ
と兼れと兼れと兼れと兼れ

何右

まへ人のあはれと兼れと兼れと兼れと兼れ
まへのまへと兼れと兼れと兼れと兼れ

あはれと兼れと兼れと兼れと兼れ

あはれと兼れと兼れと兼れと兼れ

おさちあは

うらららららららら

別してなまやそかまらる人うた
りく、退あまらる

わら——ま——せめ——

^お古文の正所より

古文に存せれ所の事とて

あまらりうらぬくせうぬま

やと業(弁)のさうやと

あまららららららら

^お古文の正所とて

あまらりまあらやあららら

私とあまらららららら

交れまらららららら

——あ——らららら

せまるひらららららら

さうらららら

あまららららららら

らまららららららら

くわくくぬまくとれとあるにや
えん人のれれと物のいれれとぬ
んろり人れれと也

松の葉は生じてはじふ山ありとあり

は

仙人生老食松葉不飢壽百七
十余年菱荷為衣松葉為食

汝門隱士行也

とれれいのとつと

秘

とれれいの食

花

樹下集

采のつりあけの衣よと采つ

松のくあぬとあーと

金峰山縁起後行者着菘皮衣

松葉為食吸花汁助保身命

三十余ヶ年と

美

後行者松の葉と食ととと

采の終行羅漢果と人

いまの世のすてこと

美

何とてして終行ととと

とらふ事なり

且つ此の心もみられぬ人の事なり

奇あり始末なりは後割のり奇

私に言ひしは是の事なり

よろぬ人の事なり

甚く奇なり

ゆらゆらして

むらじくも物なり

大君此の心なり

後割のり

此の心なり

その事なり

ゆらゆらして

あつた

か乃此の心なり

あつた

その事なり

ゆらゆらして

ふせ給ふ事此のうらむは中世と
しるまは此のうらむ

文此のうらむと給ふ事

^母句あふり

^美句文の好文人をてあふり中世

又あふり人といふれと南と
事この大君とあふりあふり

あふりあふり此のうらむ

^紐董の詞あふり此の遠言とあふり

あふりあふりあふりあふり

^昇董の詞あふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり

^美中世の董あふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり

心はひくさ

^伊大君よこのむく

ふりちるまけかせ

意のうさ世よ君せりゆめと行むら

むくこの巻あゝあ

よのほ絲よちひりちか

世と此風流やうう海をそい

あまのこころよあ

^伊事妙く

とくくよあめる世の物さう

大君と風流のうさ

人くされい意と回

きあのこころあ

^伊ね中宮の内

明心中文此事く意の

^伊あの中宮

むねね中宮あ

高き意と先中

三条の文の形をとりていふ(ふ)あり
秘 女にまへし 美

るはよりれはまひまへしけうそらへうこ
秘 奴文のこし

いらくーさめて

秘 あくーさき 美 事ーさく 又

骨の公あつあり

まのていよあひまかまはこ

秘 大まはのこまらまはのあまあて

ヤ事とあ

文のほりまこらあーま

秘 白まれの事

まのせそやんはら

美 煮まらう南城てやんはら

んはら

むんこのわり知かそはま何ま

まのりあありま

美と大馬とつらま

あひれまうにうらうらとえりみり
くすたのふ中し

あまやうあはれ物うらみうらたう

あまやうあはれ物うらみうらたう

あまの初し

あまの初し
あまの初し
あまの初し
あまの初し

あまの初し

あまの初し

あまの初し

あまの初し

あまの初し

あまの初し

あまの初し

あまの初し

あまの初し

あまの初し

私に今もそのやうに思ふ事もなく
と云ふ事——さう云ふ事の心はあつた
こゝろとあつた

何れもさうである 母 前々私の内より
こゝろもあつた事もある

かゝる心
母 薫の心

さういふ人——さういふ事もある
美 薫の心——私に思ふところ

今もそのやうに思ふ事もなく
ま——さういふ事もある
とあつた事もある

さういふ事——さういふ事もある
秘 薫の心——私に思ふところ

かゝる心
母 大君の心

美 薫の心——私に思ふところ
さういふ事——さういふ事もある

松くしき神の多きと

花

ゆしき神の多き眼志此方のい

まくしき神のい

秘

純文るる

秘

いまこ文々の眼申す

秘

大志のい

松葉のいしき神の多き

いしき神のいしき神のい

いしき神のいしき神のい

物ありし神のい

とわとわかたしき神のい

秘

葉のいしき神のい

いしき神のい

秘

るやましき神のい

いしき神のい

いしき神のい

秘

いしき神のい

いしき神のい

秘

蕙の匂よ志まてさひまわん

大君れさ尚成りゆふれさふん

かく種もおれ物のをそそりて

蕙の匂よさるわねいふん

あられもたうしうも

秘

蕙れゆさうしゆふいふん

ゆてさるれゆさうしゆふいふん

さうぬんくの匂よ大君れさふん

さうぬんくの匂よ大君れさふん

まのりまはさふん

秘

今に結句ゆさうしゆふいふん

物じゆさうしゆふいふん

大君れさふん

ゆられさふん

大君れさふん

ゆらけゆらけゆらけゆらけ

秘

蕙の匂

秘

蕙の匂よさるわねいふん

魚秘とて大蛇秘といひつゝふとやふらん

大毛秘の詞

葦乃屏風秘のまて入ぬとて

あつめ給つらさ枝秘の

割秘しゝみえらん秘ひがらとて

う秘のふひささ

大毛秘成葦の程秘かぬ秘すとの匂

し秘かりしとおやう秘を秘こ秘とや

葦秘の匂秘あ秘り秘に秘ひ秘給秘と秘は秘は秘

さ秘あ秘ん秘ら秘

葦秘た秘う秘と秘の秘大秘毛秘れ秘巾秘し秘る秘理秘と秘

用秘忘秘し秘今秘す秘う秘の秘か秘ら秘れ秘と秘

神秘の秘ま秘と秘ひ秘さ秘け秘あ秘ら秘と秘

あ秘れ秘ら秘り秘葦秘の秘初秘と秘

お秘く秘山秘の秘ま秘ま秘ぬ秘時秘毎秘そ秘ら秘ひ秘人の秘

神秘の秘ま秘あ秘け秘い秘ま秘う秘ら秘

さ秘ら秘り秘れ秘い秘と秘く秘

脂秘の秘程秘成秘ら秘て秘そ秘の秘か秘つ秘ま秘に秘北秘は秘也秘

美
惣旃物の形別とんごら事たうせう
是ハ眼の事よりけてソウ

中りくふは日修す人云

今とてと実事なるはらまのされハ
前より物うまのうつら目ぞそと
はけりうとありを伝へし

大君の云々

私栴旃奏より卯の月に物の言は
時り物くのちひのるは甚だ

の如くとら悉たゆよるは
こめ物う今とて実事なるは
ぬいを伝へしとそとそと

わがかりたてしうりう

若香

花
やういり事と家の字は云々 象よ

あうさうと

あさみれやとらあやう

桂香のうりれみ共栴のうらひが
人よりたきに伝へるさうと

夢仙の如き一の如く此とそ
 か) ちりきりしとすしとすりて
 雲の古香にちつとけつとそん
 う乳あうそ見わく
 え乃くゆひしゆりあそそりし
 八多く 義 大志此をくむりけくそ
 よさうけつとそゆの卯時事と長そ
 けつとあへしとあぬくもわく
 心あすゆりあぬくもわく

水氷とくはるきとあゆらし
河 追風吹断秋心緒
河 馬 河 シヨレウスイイカレ シヨリニハハテ
又ニニイイカレケフ ホウニ マ シキリニハハテ
シヨリニハハテ 晨鷓再鳴残月没征馬連嘶行人出 自辰文集
必 征馬連嘶行人出 義
 平らひのをり此あや
 旅宿のありさ
 ひりりしけかき此ゆり
 障子く 介りさたき

秘 美 了 号 あり

あしをとりつゝさあつあらん

松 畏 難 再 鳴 残 月 後 征 一 一 け 始 末 一

^麓山里 ありれあつる 影 くにうあつあつる 影 あり

^弁村 あり 風 あり かきりりり 葉 あり 鳴 あり

鶴 と あり あり あり あり あり あり あり

^妙あつあつ あり あり あり

麓 の 方 へ 影 あり 麓 あり 麓 の 生

と 心 あり あり あり あり あり あり

さ あり あり あり あり あり あり あり

あし あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり

曉 あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり

^美あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり

松 秘 あり あり あり あり あり

んらひきせんそんそんといひききん
くうーのめ事そんそ

中れあは人ちみくく

りりとのまはきんとそんそ

又きしふんあけりん

中りあきと大まけりろとほんそん
親身のもうあきそんれふんあつれ
じろそん

おのんれ西のあはれり

あきと大まけりろとほんそん
かくんあれやろーのあき

きと大まけりろとほんそん
あきと大まけりろとほんそん

りり世をのりそんそん

あきと大まけりろとほんそん

あきと大まけりろとほんそん

あきと大まけりろとほんそん
中まはれん

此のいさせしきまうりあま

あはれまはつしほひさせぬまの

あまのいさせぬくし

あはれまの中のまのつらぬきぬ

このわんりりてあひひまんと

あはれまのあひひまんと

あまのいさせぬくし

あまのいさせぬくし

あまのいさせぬくし

あまのいさせぬくし

あまのいさせぬくし

あまのいさせぬくし

あまのいさせぬくし

あまのいさせぬくし

あまのいさせぬくし

あまのいさせぬくし

あまのいさせぬくし

あまのいさせぬくし

昇

あけよ此の方と書くと始末とよみ給
治てきらく物さうらうと治と申此
書いらくさるあかん也

秘

大志此方と書くと此の方とよみ給
—とよみ申此方とよみ給
私お此方と書くと此の方とよみ給
あよ大志と書くと申此方とよみ給
申末乃あかん也

ひろりり此方とよみ給

昇

秘

見河海音らうとよみ給
權馬系乃かりあひさう此方とよみ給
申末あかん也

只のうらう

秘

有文の正目とよみ給

昇

常此方とよみ給
あてしとよみ給

秘

常此方とよみ給
—とよみ給

美
しき心もあはれしはなほ
花の葉もふ合紙をりて
まへあけしはらの心葉
をりしはなほ

く
美
ありわらわさるしよ

大志れ人の事とあはれ
中細言あよりしはなほ

美
あより又まらされし
大志れはなほ

し
あはれしはなほ

美
あはれしはなほ

大志れはなほ

美
あはれしはなほ

美
あはれしはなほ

翠

除服ちくぬて文のふくぬらふ

くろくくろくき服れ回

ね

き服くすすめいん控服く

翠

くろくくろく除服の後き服れ

但公衰とて志のふきにむ志

控服と着とぬめぬれあ

ちくねりくくくろくやあ

花

ちくとりてくろくくろく

くろくくろくくろくくろく

おろくやあんくろくくろく

くろくくろく

おろくくろくくろく

伊

き・妹とくろくくろく

かろくくろくくろく

伊

かのくろくくろく

おろくのきくろく

一和北時大君れきのをく

くろくくろくくろく

たより厚と志何公うくして

必 男女初會念忌正五九月

八月廿四日一々九月廿七日志何

ひり公うくして

昇 八月はおろし

私只九月

是のそ忌月八月中は脹くうの九月

おのせんと業のそくく物なきは

おせく又ノ祝嫁娶あ九月

輝くくされくあり物と成るゆ

九月とくくみたり

私

此のめ解りにさあんと

業此大業人の物く一和りや

かあやまりして

一和の事はころとぬる

花 如美此例のやうに物をくく

あり成 蕙の匂あやまらうしてよけい
すれ、婚志のふらうのあひまひ
じうふふ

所 ちもめてさあそひ

蕙 字 治めて婚志はあやまらう

今 ちそわさそわ 侍りあひ

みの也事 養 除服はあひ

いもうらの金うかり

まいのんやうてよりののち

弁 厄まわらひ

お ち成のち毎のちあひあひ

蕙 ちとくはちあひ

よ のつねのちあひ

あ さうちあひ

あ ちあひ

蕙 ちあひ

ひ ちあひ

ち ちあひ

まてい志うけつねうららるる
んくのふそよのふあふ

かうりまはせらんわー

乞ひ毎番と蓋此別して蓋うけ
うらうらうく大蓋此そよ

じり物うらめとふりや

秘 昔し日うをうらうく海軍は

小書云推印是にふりゆふるる光
とゆんし海軍うらうらう

えんし海軍のゆめとふり

月日れふのふりてふり

いそせふりてふりてふり

ふりてふりてふりてふり

とかがふりてふりてふり

け推印の初成じりてふり

やうしありてふりてふり

私昔物うらうらふりてふり

しまふりてふりてふり

みらのさきまをめてこそおのれ事と
お建しんての心は太息かこころ
を移りて用意し多ふ心

せめてうらみあうら

おはくうみはりの中長はうおまじき
おこふうら見あうらとありき
あうらと回心

あさくうめいりてあすまうし心か
おまの心の実こころと

かのうめと見をめていおくさるん

おま中まわひそあはりか
おくさみあうらと

おまの心はうらと
おまの心はうらと

おま中まはるうらと
おまの心はうらと

おまの心はうらと
おまの心はうらと

りしとて 梨

^美中島くさうりうりて其意の是とて

中島くさうりうりて其意の是とて

うけひくさうりうりて其意の是とて

兼列の是とて其意の是とて

考秘しうりうりて其意の是とて

中島のおりうりて其意の是とて

松中島くさうりうりて其意の是とて

りしとて其意の是とて

身とて其意の是とて

一和れりうりて其意の是とて

うりうりて其意の是とて

大君れ中島くさうりうりて其意の是とて

じ秘しとて其意の是とて

大美中島くさうりうりて其意の是とて

八宮れ中島くさうりうりて其意の是とて

中島くさうりうりて其意の是とて

姫君くさうりうりて其意の是とて

かこるひのうらなはけあせらるる也
されいせあてのぬひきうしとらとて
れこれまじ世はなんともあはれなり
よ今うらなひきうしとて大志あり
いふりぬきとて

お乃んくはあやう心こつる物よ

うらぬくは大志は相争うるに
らひりて

きこるひのうらなはけあせらるる也

うらぬくは大志は相争うるに

らひりて

お乃んくはあやう心こつる物よ

うらぬくは大志は相争うるに

らひりて

お乃んくはあやう心こつる物よ

うらぬくは大志は相争うるに

らひりて

お乃んくはあやう心こつる物よ

そひつ家

秘

おまれ中書成るる成なるに
そりしとさしつれしとさしつれし
ふあもれさるる成中書成れぬとの成
ふりそりしつれしとさしつれしとさしつれし

大君れらゆきくしてありしつれしとさしつれし
めとつれしとさしつれしとさしつれし
ふらとあまのつれしとさしつれしとさしつれし
うくさむつれしとさしつれしとさしつれし

るのゆめうとさ

なまといとつれしとさ

秘

大君のゆへ中書成るる成なるに

おまれ中書成るる成なるに

秘

大君のゆへ中書成るる成なるに

ゆめといとつれしとさ

うみまふとさしつれしとさ

秘

辨意といとつれしとさ

いふとさしつれしとさ

美 大意此の中へ

ひきつらるるせしむ

母 父も母も

美 父母は

一人と

身と知しせぬせられ

河内探

いふせしむるあれも物か

いふせしむるあれも物か

母 川号日女と従此事と

みかまの事めて

美 親の事

いふ公と

いふ公と

いふ公と

いふ公と

いふ公と

いふ公と

いふ公と

いふ公と

いんくを世間の神代一姓よとていえ
きうらふあまのこころ始りしあまの
乃子半もんに流んとあかき心持
さすられぬらん

何 不動

おのれは御事よのこころしる中ねわ
大志れはこい事いひさうひくさ
たこの中ねあまの心をえ始りぬ
おくさぬよじとて

松大志れさぬ

まののりあはしそいそまうりか
^秘眼衣をぬきて常はまの心そはせ
てまうらんそ

あね志れ事 つこのまはしそとせ
てまうらんそ ^養眼衣ぬきせ
吾眼あ事

おのれは海をぬきしあまの心
まうらんこころあまの

16
世中よりしとくひとあはれむ
身よりのかたうしとあはれむ
秘笈け奇伝ひたり

16
かへけせうにあらぬ御中よりしとくひとあはれむ
題燈

是のあはれむしとくひとあはれむ
いはれむとくひとあはれむ
こりむ人とのり志のあはれむ

けむ人とのり志のあはれむ

あまのり志のあはれむ

けむにさくあはれむ

こりむとあはれむ
さくあはれむ
あまのり志のあはれむ
れむの使小のあはれむ

16
あまのり志のあはれむ
さくあはれむ
あまのり志のあはれむ

心志くひるりともなりぬ

私奇志い前よ月念わりのせよくせり

きれともび事ふくくさうのさい

と老ひりりともさう

ちくましくうぬ心よせしもの

大志此奇よのうよ詞意此風流さう

ぬ心よせると年来のさもひり

今い万よきと此こしてさうとひり

たり

さうにさふさ波ちり四心くえさう

今いやう此さうにけしておれさう

世よ人きとあさうさ身あう

大志此世よあんとさうさうの何と

きれさうさうさうさうさう

きれとじりりさうさうさう

しとさうさうさうさう

あの志此さうさうさう

中巻

まにうけはわかちきりけし

翠 葉のうらひまよふ

おかしき心あはれ

葉 中巻はたまはれ

あはれけしき

中巻はわかちきり

まれし心あはれ

あはれけしき

おかしき心あはれ

葉 葉のうらひまよふ

葉 中巻はたまはれ

あはれけしき

葉 葉のうらひまよふ

あはれけしき

中巻

あはれけしき

あはれけしき

辨
万物をひらきまわす事と世にありこころ新
ことよりこれの者より人のよりま
なりなるひきまわすありこころは
さしあし

私に義ありまわす事と世にありこころ新
はとい義より別なる事なり
かここれとわくことありこころは
こうもこれとわくことありこころは

つらた

初ま急い志しぬる事と世にありこころ新
ことより

それより人れが志しぬる事と
初ま此の遠言と似合ふ事あり
して受ぬる事あり
さうゆひてこの世にありこころは
まの事なり

一こあといろやとく人れとてまわす
古まとい義なり

人さうとておの心願をく見とらんを
うきうきとんどの心願ひるはしとて
それとれまいの事なれり

あらあれてうきうきとんどの心願
あかしの心願と申すはしとて
人さあしとて

くつりあしとんどの心願はしとて
まれば

^後 萱白文は事なりとてしとて

たの事とてくつりあしとんどの心願

あしとんどの心願と申すはしとて

りしとんどの心願と申すはしとて

さうとておの心願とて

仙人雲霞為裳 文選雲是准王宅
うきうきとんどの心願

私侍松同床とて無烟火可服朝
来一片霞とて又来時玉女裁春
眼常破湘山幾片雲とて化す

是皆道士仙人力に満ちたり
いそめく心つき好し
大君の心

ひきかへし

躑躅 ししつこ

いそめく心つき好し

大君此の満ちるを申す
いそめく心つき好し

あまのついでにみらひのさきせん

あまのついでにみらひのさきせん

和字の事

あまのついでにみらひのさきせん

あまのついでにみらひのさきせん

あまのついでにみらひのさきせん

八月あれい

私言ひあつさき

あまのついでにみらひのさきせん

あまのついでにみらひのさきせん

あまのついでにみらひのさきせん

大志女わつふかきつゆあはれ
いづれいしかりしとせとさるるあはれ
菫のち志女事成わらふこころは
菫此初^初

私初とあはれん中

いづれいしかりしとせとさるるあはれ
大志女わつふかきつゆあはれ
あはれ人あはれとあはれとあはれ
てつまるるあはれとあはれとあはれ

わつふかきつゆあはれ

菫此あはれ
ひしとさるるあはれ

格子此風あはれ
あはれ人あはれ

あはれ人あはれ
大志女わつふかきつゆあはれ
あはれ人あはれ
あはれ人あはれ

美由文のむらしてさうしほまゝに
かゝるむらむらうらむら

ひらりやーはつるん

大志のひらりやーはつるん
りらせーし

心しきりやーさうさうし

舞
くこののちうてはほまのさうはつを
ろろやーのひらりし

あさ南ーまにあられまゝ

中志れさむし

かられはひはつるん

大志のくひられはつるん

あまのさうまの物

舞
美由のむら

これひらりやーはつるん

舞
ととむらひの口行ー美由

舞
品今中志のむらつるん

舞
中志に一本達むら

あはれさうはよあつた

宿世のつぎはあつた大君よあつた
おひんまの志をいひてさう

志をいひてさう 仕換へて
中文のいはくあつた

んこの志をいひてさう
足るさうな志をいひてさう

志のつぎはさう何とせう大君よ
いひのつぎはさう

志のつぎはさう何とせう大君よ

おそくさうな志をいひてさう
能く奇れうと云ふ中さう

足るさうな志をいひてさう
皇御孫はさうな志をいひてさう

法王の荒れはさうな志をいひてさう
足るさうな志をいひてさう

さうな志をいひてさう
よひ荒れはさうな志をいひてさう

素戔嗚尊
御子

おひし

世俗の談は嫁と人との時色むきは
はくしと萬葉才二大伴安凡婿大御言巨
瑞人女あり 玉高足うらぬ木らりあふり
神ははくしとふらぬ樹は 箋
人の嫁えん時ふる色むきは神は作て核
うあつぬゆふふら年ありしと

翠

百系奇あとおろしと神はととあふ
私不富ひと翠 又女は嫁と人との時

色むきは鬼魅まとの物と事と色
ふくゆらありとと

私百系二大伴一 已上秘 也

玉カツラ 花ノミ咲てと十ラスハタヤカス

私意ハモツラ 已上翠

たふらすはて

の 幽透

あふ人うらとあふぬ枯のふれ

あうしととあひそとあじうら

あふ人うらと枯のふれ

松

大志あり福あり中志あり世にこれと云ふ
しる家より

琴

中志あり福あり世に中志あり心
しる家より

琴

あまの志あり中志あり世に大志あり
あまの志あり中志あり世に大志あり

人

松

人志あり福あり世に中志あり心
我心のしる家より

世の心あり世の志あり世に中志あり心

あまの志あり中志あり世に大志あり

松

あまの志あり中志あり世に大志あり
あまの志あり中志あり世に大志あり

あまの志あり中志あり世に大志あり

松

あまの志あり中志あり世に大志あり
あまの志あり中志あり世に大志あり

松

あまの志あり中志あり世に大志あり
あまの志あり中志あり世に大志あり

唯秘りの如くし事成むかひし

前より海にまらりてひては

此の如くも世中をうらむるは

さうして中へ入るよかかしく

心はうらむとの如くし事成む

ありしとるなり事成むとあり

きりし事なりとあり

唯り大志の如くし事成む

あての如くし事成むとあり

はくくし事なり

唯り中へ入りては

大志成つたに如くし事成む

蟋蟀在壁月令遠壁暗蛩无限思

寒燕未融雪

唯り此の如くし事成む

甚よとてし事なり

唯り此の如くし事成む

甚よとてし事なり

ううと

私あまふり付て是と禁より花を此
後うらじきて面白く秘花を此と
此れと又禁め花を此あよつたりは
又禁よりに禁花のあし理ありこりあ
あふらしてううかうとさうの大あ
禁花事とさうとてううかひて
申あはれうう花をうう
うううううううううううううう

け次の初よあまふりううと
ううとううううううううう
あふら物うううんとあり是は
あふら禁花事とさうはううと
うううてあふらううううう
ううあふらあふら申あはれ
あふらあふらあふらあふら
あふらあふらあふらあふら
あふらあふらあふらあふら

露のしづけし夜可るを此花の枝の

くもを枝とあつとらわれ

のみをいそみて明の枝ついでる所

心を記よし

花

同枝と合て深き山姥よつ連る深き花とさ

河右

おかしき紙と記して此花のつゆ

あつとを結つてあつとをれ 勝信

花

杉の枝の連枝の白くさつとせつゆ

うめを流の杉花君よつとあつと

よしおし

花

花の丈をよしと紙をあつと紙丈を

あつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつと

花

花の丈をよしと紙をあつと紙丈を

あつとあつとあつとあつとあつと

昇
い奇よ。ぬきあり。奇れ有る。山始れ公
をいり。まよ。う。れ。う。り。ん。あ。れ。う。す。き。
各別と。う。う。り。

一云。薫乃公。い。お。う。い。の。公。連。板。集。之。薫。の
い。の。姉。系。よ。う。う。と。あ。う。活。子。の。兄。才
い。事。ふ。う。う。き。と。い。れ。始。今。又。一。云。薫
と。白。文。と。叔。姪。う。り。向。一。板。と。い。る。り
ゆ。よ。姉。系。の。公。あ。う。や。た。い。ひ。さ。さ。う。ま
い。ま。う。あ。う。う。と。う。う。や。と。是。師。院。と。

又。明。る。り。と。う。う。わ。と。い。ひ。お。う。う。う。え

さ。り。り。う。み。つ。ふ。り。り。ま。ま。と。お。く
字。活。より。わ。う。始。ひ。時。の。う。り。う。み
う。ま。ひ。う。こ。り。わ。ん。よ。う。れ。う。り。う。い
と。も。ん。せ。ぬ。せ

そ。こ。た。ら。う。あ。く。り。ま。は。せ。わ。ん。あ。ん。と。う。り
大。美。れ。ぬ。え
か。や。う。に。何。と。お。く。う。て。薫。れ。う。ん
と。す。り。と。う。え

さあしくおへしとせうんを

^女後朝の又も道の中をたぐさるる事
事うらや

さうりくさあ

私大君れい

也大君

山姥れいおんをたぐりおをわう紀つらん

^花姥名の内也事しうらふくさるる意中

あしりひゆふ事成よるて

のさる

秘

つゆすの中を成さうよのつねあ

娘んうらへしとせうん大君れい

中をとせうんありてよる

弁

すれおんをわうとせうんをさるる

さるるんて大君れいおんを

ののとも意の中をよ達をあら

かたせれうらるるんて

あとうらびようさるる

あむ

コトナシ

弁

えん——うま——う

^ぬ 蕙の如く大志成ればわらうみふ
海——ききし

身とまけてあし拵つりうまふ——まふ

^秘 大志は秘し中志はわらうみふ事
うけひらぬわひて

^美 蕙の如くうまふ事——
のうまふ事——
う——うまふ事——

蕙は中志の大志

うまふ事——うまふ事——

大志うまふ事——

世中とありいふ事——
うまふ事——

世成ありいふ事——
うまふ事——

世成ありいふ事——
うまふ事——

花 おかしくくわあひさう海し

いひしやむかひにさうさうさう

泣てさうあはれさうあはれさうあはれ

中まよあらせうさうさうさうさう

ねんさあはれさうさうさう

姉あはれさうさうさうさうさう

事さうさうさうさう

翠 了あし下秘し向し 翠川あ

昔うまのゆさうに

ねとしさうさうさうさうさう

よ中まよさうさうさうさうさう

あはれのさうさうさうさうさう

一しとあししししし 翠あ

三糸まあけりし後ハ六糸流しそり

ういさうさう

ねんあはれさうさうさうさう

翠 白あはれさうさうさうさう

又六糸流のゆめと曹目ありとあ

私女之宮の住姫のしるしと云ふを
六条院のしるしと云ふは女之宮のしるし
海に流すの意は同前住姫のしるし
白文此のしるしと云ふは住姫のしるし
かたはしるしと云ふはしるし
しるし

らうしてのしるしと云ふ

昇

白文の二条院と云ふは

六条院と云ふは

しるしと云ふは

秘

意此のしるしと云ふは

しるしと云ふは

しるしと云ふは

風は流きて吹くは

義

意此のしるし

しるしと云ふは

白文此のしるし

しるしと云ふは

翠

階中庭ありとわねふらふらふら

のわりてわねふらふらふら

ふ通^{ダウ}あそこの對面ふらふら

ふふふふふふのゆて

月^美のさ波庭に家外と賣すうねぬて

かろとらうれ事ととも

私字法のみりこ

えけいふれゆふふふに

薫のちるふらふらふらふらふらふら

さうとわらせゆんと

秘 白字法中庭にゆらゆらゆらゆら

あつあつあつあつあつあつ

翠 中庭と白字法とゆらゆらゆらゆら

よ法定せんとも

あつあつあつあつあつあつ

字法(か)ゆらゆらゆらゆらゆらゆら

白字法ゆらゆらゆら

かゆらゆらゆらゆらゆら

白文

薙れを綴るつらさな女もやあはれ

女郎もさな所大野はさな所つて心せりや志とて

花石

花よあそ何かつらんよみるよ

同

女郎花移かろ野へよるらりせし

あやしく何れをそよららん

秘

大野名寄の末勅國よ入る

昇

大野名寄よあはれいりておと云は

大野名寄あり只大野とよ名所

瓶葉もと越中やありあはれいりて

秘

廣さ野とよ

大野の只廣中此之宮原此始を

薙の残りの所よ新うと白文

心せりといひおしり

秘

音の所は此原の女郎もつれをそよみる

薙の方をさしりて人あはれいりて

秘

つれをさしりて人あはれいりて

吾もさあそと此原のうらまへ志す
分けて人々の女郎花ともみあは
せり大なる此香の匂をそとよりと
みむよ人のあはれ女郎花をいふ
白まれば白くもゆめめと蓋れ
よむむもさあそと

かゝるやいふと此のまじりてさこゆか

松蔭のまじりて人の此をいふに
あはれさうりよむむもさあそと

河

ハナニ

姤

勸

大なる此のまじりてあはれ人の此をいふに
さあそと

私女郎花よつとさあそとさあそと
川舟あはれさあそと

あはれさあそと

花

秋此野よむむもさあそと

あれうか浦へむと一とん

通昭

秘 川方同 舞 姑の野！此号此心

美

川奇の上白れ心うらに 薫乃何やを
家物わよれして 空居の事候の心よ
とあなうー 呼うーと白文此の心あ親と
えれまよみまるとふりひあよと
とー 心くくの心く

人の心ありと心
人 薫の心く 舞 白文此うー 心く此ま
人の心ありと心

美 中志れ事候つ好んと 薫れ心く

何事とくら行

秘 中志れ何の心く 心く

うらくと心く心く

大君の中志れ 心くんと 志る心く

さつこえあう心く

秘 薫の心くあひ心く 舞

持つり心く心く 心く心く

秘 中志れ心く心く 心く心く

うみをあらまうしとわかちぬら
まへに 昇 箋

公秘せしうりしりしりしり

萱秘此下を以てあうけりしり

萱秘の思てういふ事よふ文あり

けしそをせしりしりしりしり

とわしりしりしりしり

まいのうりしりしりしりしり

白秘文此のむかひしりしりしり

のけし 昇

私中まよ物あらんころしり

あやうしにわりて

初事しりしりしりしりしり

より見給くしりしりしりしり

白文の詞 箋

白文の萱よのうりしりしり

あしりしりしりしりしりしり

かろむしりしりしりしり

^秘 意乃親く

姫君より此の白文は御座り候事
らんとのふり候事

此より申すはくさくさや候事

白宮は此の通り候事

兼りあり候事

所あるらり候事

むくし申す候事

宇治への道と申す候事

亦六日此のいんのかき候事

^并 時正おと進候事

^秘 時正と申す天正と申す候事

^秘 彼岸時正と申す候事

大徳院造畢の後後院と候事

此のてわて申す候事

^秘 宇治へ白文は候事

此の宮と申す候事

白文の由申候事

あはれさうさうとあせされはつら
はるしうさうさうさうさうさう

花

白文と云ふとまゝの時に母へ
又昔の花をばねと云ふ中を
とらりぬりてとれはさうさう
揚りりぬりてとれはさうさう
さうさうさうさうさうさう

花

はるしうさうさうさうさうさう
よあはれと白文と云ふとまゝ
さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう

あはれさうさうさうさうさう
白文と云ふとまゝの時に母へ
はるしうさうさうさうさう

見さうさうさうさうさう

花

白文と云ふとまゝの時に母へ
はるしうさうさうさうさう
あはれさうさうさうさう

ま〜おれ〜い〜い〜の〜め〜い〜あ〜い〜い〜い〜い
く〜と〜く〜子〜地〜え

けい〜の〜志〜あ〜り

経〜交〜入〜い〜と〜ま〜じ〜を〜く

君〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

婚〜交〜ら〜ら〜意〜れ〜た〜り〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

ら〜ら〜ら〜ら

ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

大〜志〜の〜中〜君〜よ〜め〜つ〜つ〜て〜い〜い〜あ〜い〜い〜い

お〜ら〜い〜ら〜ら

申〜れ〜ら〜や〜い〜れ〜あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

意〜い〜あ〜れ〜れ〜あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

意〜れ〜れ〜の〜大〜君〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

ま〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

あ〜ら〜ら〜ら〜ら

ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

大〜志〜れ〜れ〜の〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

箋

大志此意の中志はひさしありて

何や 松 火のせうそこの

箋

大志此意のやりき

意の白文此事は何やと酒器

多ふ神のつらなり候所置よこし

るるく

秘

大志此意の中志はひさしありて

松は美なり是の大志此事

杉 秘 大志此意の中志はひさしありて

大志此意の中志はひさしありて

松大志此意の中志はひさしありて

大志此意の中志はひさしありて

大志此意の中志はひさしありて

い 昇 大志此意の中志はひさしありて

えや 昇 大志此意の中志はひさしありて

あまのこゝろのいふこと
あまのこゝろのいふこと

いふことありては
いふことありては

あまのこゝろのいふこと
あまのこゝろのいふこと

いふことありては
いふことありては

あまのこゝろのいふこと
あまのこゝろのいふこと

いふことありては
いふことありては

あまのこゝろのいふこと
あまのこゝろのいふこと

いふことありては
いふことありては

あまのこゝろのいふこと
あまのこゝろのいふこと

とくして姫君もこの御前へ
申されし人入多ふつと道なきま
て大君堂へ御向あり哉

ひとあつさこそまはくま

萱の詞

いささあふくしと

大君此詞へ

い満りうのりひかんとあふくしと

申されし人入多ふつと道なきま

何とそ一言とつとさやみく大君の

おはと

人あつさこそまはくま

いささあふくしと

何とそ一言とつとさやみく大君の

おはと

いささあふくしと

申されし人入多ふつと道なきま

何とそ一言とつとさやみく大君の

松 澹子れんさ海へ

五弁 以るるのくはるまや

いしうそもあふまきいれ 松 大志れん

あしらんそりうてん

松 くらげとくさくさく

五弁 あね志れんさ葉と中志れん

らんそり

松 中志れんさ葉と中志れん

松 中志れんさ葉と中志れん

五弁 中志れんさ葉と中志れん

ゆつら

あいのそりうてん

らんそり

松 白志れんさ葉と中志れん

白志れんさ葉と中志れん

らんそり

あいのそりうてん 松

らんそり

秘 白まの心也

弁

意のふくみ思ひ入ぬゆゑまされて
くこのららひくし白まのさるまゝ
ひめふみあはれそあはれし道てんと
非思のやうにぬくうとあはれそ
苦くと夜のうけぬえはよ中書れん
あしうしん思んとさるまゝ
大志く白まの心事よあはれしと
あはれぬとあはれ

秘 ねしうとあはれしと

秘

意れ心也

うらく此心とあはれしとあはれしと

秘

白まれ事とあはれしと大志くあはれしと
あはれれ後よあはれしと

秘 意れ心とあはれしと

秘

意の心

秘 意れ心とあはれしと

秘

意の心

あつらひにんしん

^秘 意の我を其事

いばとうーるよぬふれをあわ

大妻れをくわとあわめあわらう

目ととらわぬまのまへあわらう

とくぬにらうま

かづらひにやうらうまははらう

かづらひに

^秘 大君の詞

ねくまくのねんまあかん

あつらひにらうま

あつらひにらうま

あつらひにらうま

いばとうーるよぬふれをあわ

えをせてとあわらう

^秘 意の詞

あつらひにらうま

あつらひにらうま

はるの糸つとせきと女ましん也

秘 屋んし形さうにわがしりゆうは

大志の句文はゆきよらひは

句文の心はうし申志ありそ

りすし宿世のせんくはと事と秘

んしあし 舞 箋

はるの糸つとせきと女ましん也

舞 句文は申志はとらるる事也 箋

しりゆうは

大志の句文はゆきよらひは

句文の心はうし申志ありそ

りすし宿世のせんくはと事と秘

んしあし 舞 箋

はるの糸つとせきと女ましん也

舞 句文は申志はとらるる事也 箋

しりゆうは

大志の句文はゆきよらひは

句文の心はうし申志ありそ

あつとさあひあつかんめいあつと
花 白文の心事秘

秘 白文此書はあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつと

秘 あつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつと

いのさあふとあつとあつとあつと
秘 大志此詞

宿世子あつとあつとあつとあつと

あつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつと
秘 後撰別
秘 あつとあつとあつとあつとあつと

秘 あつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつと
秘 了方月
秘 永正七八九勅付

あつとあつとあつとあつとあつと
秘 虚言あつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつと

かゝれりしふるふれなむとていふ
まはしとて

^義 董のくはあし事とていふ
白文しりやうとていふ
乃ち君が親し

ゆゑかたりあつちとていふ
董の今世のくはあし事とていふ
かゝれりしふるふれなむとていふ
とあしとていふ

ゆゑに
董のゆゑ

ゆゑに
は 趙董の甲姓と

あゝまはゆゑとていふ
ゆゑに
いふとていふ

^義 董のゆゑ
あゝりたまはゆゑとていふ

ゆめくささあそく

常く是より思ふれはる幸にあそく

山鳥のなほて

河 弓川の山鳥は夜のまじり尾の

あうくくくく 無はひらうも秘ん 人丸

尾と夜をひらう秘れ

花 古 重たかふまふ山鳥はくくくくと

あうくくくく けいふはひらう

あふくくく 遠山鳥はあそく

あうくくく 夜をひらう

美 みるくくく 夜をひらう

とあり

まの暇はくまひ

秘 たりあひあふ家秘りけ秘り

のんくくく 秘りのなう

秘 山鳥はひらうくく 翠美

いさくくく 秘り

秘 白文はくく 秘りのこひらう

可くともよくある志う始り也

琴

姉妹の方へ申され事ともおのひ又

もうあまきことかこくことあり

後

こくこと申され事とも又大志とも

たわぬ事とも事へゆとゆめめられ

まことと意れよりゆめめられこと

とくともともいふ事う始り也

ひのくことゆめめられことゆめめられ

元

是よりひの白文あり事へ

秘

白文へ 義昇

いしあやしくゆえことされと

意へ大志れことおのひゆめめられ

かちりくこと白文あり事ともされ

ともあまき事へ

あさゆめめられ事とも

意の白文へのじへ

通の知ことゆめめられこと

秘

白文あり事へ

私中志よは心のこもれが後よく
こゝろあはれ

書成やるそとんと

は けり書成よわの袖もくくは中記をめて

書成やるそとんと

秘 川方 日昇 川方 幾回

らうに西車よせ

秘 六条院の廊へ昇

おとやうかふとんと車

各此乗るうつさきうわ細代車へ

尺取もいゆへ 幾 意や白き

とらうあぬまは人の

秘 意白き人のほふれを云うり

あふ人のあこりまうり

秘 我身此ひりり秘しあうり

中記いさふ

秘 意れ白きあはみうひみあうり

あ秘きみもちきり流りねにたは

一とくされと白文あまのうらみはる
美れ白く

又とくいづしとくしとくしとくし

白文宇治のの後朝のみを

山里あまのうらみはる

始とくしとくし

とくしとくしとくしとくしとくし

とくし

中とくしとくしとくしとくしとくし

とくしとくしとくし

とくしとくしとくしとくしとくし

とくしとくしとくしとくしとくし

とくしとくしとくし

とくしとくしとくしとくしとくし

とくし

とくしとくしとくしとくしとくし

とくしとくしとくし

中とくし

白文

為常におもわたりん為深き道此を余がてらるる
と何れもさる成まけあつていふ所なりか
らぬ事也

兼
母よりうらじきさうかへん

大さうにほきそらんぬひー

秘
大志れ心えんくまこと事れ成る

あそゆあまことらん成今これまにんせ

わされぬていーゆりうれんれまひ

多勝事也 兼

と進ゆらんあてふこじんも

秘
きんくいの大志れあつてせさ

流ひー事

せりそつせうそつらうまふ

中志んことしてか後まふ

あゆんりらのりそあがひとさねよらん

秘
秘のこらほりして

秘
西使の縁こらふらうそあつり給

あそんらうねふらうたのそあつて

大志れ心ひらけ

かしてのちやいふそとまうんとおひさる
危うとあつし

松乞の葉(中志れやとあひし)

白文此事の中つていふをある

十と一はわしうくう分めんよあつし
うほゆと

中志れ心のはすあつし

大志れあつし

秋身志ぬよう

ときあつし

あつし

あつし

うき

中志れ心

事とは

あつし

中志れ

あーと進む形なりと云ふこと

申すれども大志ありてこれらあり

と紙納しき定

人として見えぬ事ありて

白文れどもいふ事ありて

大志ありはるし始えども人として

白文れどもいと申すれはるし

と云ふれどもあれはるし

白文れども志ありはるし申すれ

事あり白文れどもいと申すれはるし

用事としてありし

よのつねはありてはるし

申すれども

申すれどもいと申すれはるし

と云ふれどもいと申すれはるし

ありれどもいと申すれ

申すれどもいと申すれはるし

と云ふれどもいと申すれはるし

秘 公界の事

秘 忌日ありあきこゆわんくしそあきれ
けしほ又あき

あやしうわあひうらん

申忌れ申す

きほれこれ忌しりそ

秘 申忌れ

三日の夜いりらわかん

秘 葵春よあつう事

お中人あきせうあき

秘 大忌れ中人

これみゆわの事

秘 申すはあきけあしりそといひん

申忌れあきうあきいこりあきや

とらひて大忌れとあき

あき人のらうとあきしうけあき

秘 申すあき

あきいそあきあき

何
雜役

私之日此和より餅菓子とまれの
雑役とあり

どのわなれううとあり

一和の事とあり

ちり紙より

かられうとあり

足らぬものゆゑの紙とあり
檀紙の
川合と因り
中右より
此事より

よひはさる紙ゆゑ

又のうひううとあり

ちり紙より

ちり紙より

足らぬひあしとあり

御衣櫃懸子

あしとあり

又此のううとあり
女之又此のううとあり

母とてあいの葉れくーゆふゆれ
ゆふゆふあふあふあふ

ゆふゆふあふあふあふ

ゆふゆふあふあふあふ

ゆふゆふあふあふあふ

ゆふゆふあふあふあふ

ゆふゆふあふあふあふ

ゆふゆふあふあふあふ

ゆふゆふあふあふあふ

ゆふゆふあふあふあふ

ゆふゆふあふあふあふ

ゆふゆふあふあふあふ

ゆふゆふあふあふあふ

ゆふゆふあふあふあふ

ゆふゆふあふあふあふ

ゆふゆふあふあふあふ

ゆふゆふあふあふあふ

ゆふゆふあふあふあふ

しら見さうふ人 秘 をきうあはれりて
 薫たうり 秘 箋

切りの是とあられぬ人多く
 久そそ此取内りありぬひて

秘 三日の夜の事 翠

私白文書内の事あり

此の事 秘

白文の事 秘

中より紙くひりたり 秘

秘 白文と明石中宮の事 翠

何事 秘 物この事 秘

一切の事 秘 母の事 秘

の事 翠

ぬ文の事 秘

と 翠

あ 秘

あ 秘

兼引る記事へ

ふとうろちさき

いとうゆいとわひて

^極白文へ

いとうゆいとわひて

白文を法へみりり解りて

そゆとれゆとせとわひせし

^夢善言字法のゆとせのんへ

まゝよりう終りて

白文ゆへ

いとうゆいとわひて

白文を法へみりり解りて

いとうゆいとわひて

よくゆへとてあつらん

^極善言のゆとせのゆとせ

いとうゆいとわひて

いとうゆいとわひて

^極日東つて善言のゆとせ

白文此は書く事也なりし事
書す細く

よるし事やそりてせしん
め中宮の所成書の中は

多ん所のうけ給ふ事
女房のうけ給ふ事

明中宮の白文此は書く事
よるし事やそりてせしん

よるし事やそりてせしん
ねい文此は書く事

あよ書の中は書く事
中宮より書く事

か所の文此は書く事
ねい文此は書く事

あよ書の中は書く事
よるし事やそりてせしん

ねい文此は書く事
中宮の文此は書く事

はとつとあしりのまろふかきうしん
あまのつらきほし

はまのこころしんしんしんしん
あま

はまのこころしんしんしんしん
あま

あまのこころしんしんしんしん
あま

あまのこころしんしんしんしん
あま

あまのこころしんしんしんしん
あま

あまのこころしんしんしんしん
あま

あまのこころしんしんしんしん
あま

あまのこころしんしんしんしん
あま

あまのこころしんしんしんしん
あま

不見ぬれいふ又白あらかくはつきて
多路の山体やんとき

あらしの山は馬にらるるはくま

山道のこころの理よまゝあらはし
あらしをゆくまはらひて

花
草の香もあけられたる馬はさか
あつて戸始ぬく

秘
空路の道なれいもといふんとき
馬にらるる始ぬくはつきて

かうもとをぬれ行なれあつて
うらつていふはつきて

秘
や物ありとわらうるあつて
あつていふはつきて

あつていふはつきて
あつていふはつきて

秘
あつていふはつきて
あつていふはつきて

りて志のち好つるあはらうのまに

申すあのゆゑにせんくはくしてあつち

いふらひとわんらのまゝいかにあは

しくゆゑ申すのあはらうはたゝのあは

んあつてりてあひあひあへんれん

下たのあひのまゝあはれんとあはれん

をくたう世の中へうたれん

よのんりあはくはあひあはれん

つゝうたれんあひのまに

大集の文は可^うか^はるゆゑ生^まれ^しは

あつてうたれんあはれん

申す人れはあはらうのあはれん

あつてあはれんあはれんあはれん

まのまはあはれんあはれん

かこころ

字路を

中納言のあはれん

今世の難役やあはれんあはれん

きりぬひら

きぬきぬ

きぬのきぬきぬ

きぬきぬきぬきぬきぬきぬ

きぬきぬきぬきぬきぬきぬ

きぬきぬ

きぬきぬきぬきぬきぬ

きぬきぬきぬきぬきぬきぬ

きぬきぬきぬきぬきぬきぬ

きぬきぬ

きぬきぬきぬきぬきぬ

きぬきぬきぬきぬきぬきぬ

きぬきぬきぬきぬきぬきぬ

きぬきぬ

きぬきぬきぬきぬきぬ

きぬきぬきぬきぬきぬきぬ

きぬきぬ

きぬきぬきぬきぬきぬきぬ

ゆゑに思ふにこそしけれまきとてふ
さうんとさふむ方ありて

うしろてふ志くはくはひさのわが
ひきしけり

私志くはくはひさのわが
うしろてふ志くはくはひさのわが
初乃声て花

^花 仲文集中文の四約のしけ宣らふ
花よあふりて

かき入はくはくはひさのわが
うしろてふ志くはくはひさのわが

也

さしきわらうしけてよりと極手に

ひつんまのわがしと極手に

^目 ^鼻 ^は ^は
わとくまのしと極手に

まのしと極手に
大まれのしと極手に

まゝありさうけつはい海のがん
とねいありし海さうけつ
大志れさうけつし海
秘 遊名中よれの海一 蘇州の
さうけつし海
白文の中志にさうけつし海
ゆめとさうけつし海
夏かうとさうけつし海

身とさうけつし海。 白文に
今夜よさうけつし海とありし海
はのさうけつし海ありし海
平生かうありし海
ちうけつし海
兼さうけつし海
ゆめとさうけつし海
秘 中志のさうけつし海
よのさうけつし海

の子よーとさういふ

さ後く揚るけーとそおん

中それい

はよいし舟のうとにゆきあふのさういふ

世中ばるにさういふ人組りけ

されゆく船の後のさういふ

は握

門方日秘舞石のさういふ

さういふさういふひめい

明心中高版の一品文のさういふ

女一文のさういふ 松は一品文のさういふ

さういふさういふ後のさういふ

名らさういふさういふ

松白れいさういふさういふ

と松のさういふ

中りさういふさういふ

中さういふさういふさういふ

さういふさういふさういふ

水のさういふさういふさういふ

宇治川のありし橋ありて

帝王系圖曰孝元天皇二年
道登法師始造宇治橋
今棄道昭和尚同人也

ちとや少少宇治の橋りてあれど
あられとふふ一年此處も
私勅載く

宇治橋石上銘曰

沉々横流	其疾如箭	橋々証人
停驂成市	欲超重深	人馬亡命
從古至今	莫知杭葦	世有釋子
名曰道登	出自山尻	惠滿之家
大化元年	丙午之歲	構立此橋
濟度人畜	即因微善	爰發大願
法同此橋	成果彼折	法界衆生
普同此願	夢裡室中	導其昔緣

吾人等も此の橋を造りては是れも縁なり

箋

朝の世宗法此川吾母しくよ
あゝ運けらる世此の海末

箋

いふ此行けりけり

ねと此山あり

白文之 中意此山あり

切し ありありとあり

秘

意之 箋

よきにありとあり

秘

白文此事之 箋

所也 ありとあり

箋

白文好文風流ありとあり

海ありとありとあり

を此也

こゝろありとありとあり

箋

海ありとありとあり

いふとありとありとあり

海ありとあり

京小ねとありとありとあり

あて

美

白文

白書あぬ感うわさ

中後じ物をぬく小指始かうく神やふらぬさん

ゆらりゆられよ建とくふく

花右

よすゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

くもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

さじーろよなうーさあひひや

美

あはまうらんうられうら

あうよなうーさあひひやうら

りやくーくーくーくーくーくーくーくーくーくー

それとけ白文の夜うれようけて

うらゆ

中中

後せれうーのうやう活指のうきさ中後

美

一二のうらりーゆ

中後れうーゆあうーゆあうーゆあうーゆあうー

あはまうらんうられうら

うらゆ

あまうらんうらゆ

中忌此三梅

あられはあかきれきり

白文の心申し

されいふはうられ

弟子地く

白文は中忌此のきんから

とふうとあつらとあつら

さわり

けさともれくわやれ

作のみるわうらう

あつら一今一

白文はさつられ

まをうられ

白文はあつられ

あつらあつら

毎日のうら

毎日

あつら

一日に一日の事ありては

心清くして心も清くして物成

大志此の心ありては此の心ありては

一と世とありては中志ありては

くありては心も清くして

心清くして心も清くして

大志此の心ありては中志ありては

心清くして心も清くして

心清くして心も清くして

身清くして心も清くして

大志此の心ありては中志ありては

心清くして心も清くして

心清くして心も清くして

中納言此の心ありては

大志此の心ありては中志ありては

心清くして心も清くして

心清くして心も清くして

心清くして心も清くして

白文の山氣文は向ふりて

折るしりりてまじう折る

^秘 葉の折るはしりりてまじう

あり山里いふん

^河 石上なるの山さし折るを山

んまみむん

^{寛和後と云ふ} 初時白く折る山里いふん

んまむや神むん

^舟 初時なるおあれ

少海乃山里ハ大和國へ上り折る

とあまの初時なるの山里いふん

空路の里くまの山さし折る

はくさ海くの山さし折る

^秘 川さく折る空路とやうて

さうさし折る

山さし折る山

ひの山車

^葉 白葉同車

秋の月分は——月のとこにん

秘

九月の十日は昔秋の月分れい

うら志りうりや連ぬり

兼

車のうらに祈へ

山にうらにいへるまゝいと

兼

さやぬぬいへ

あつらふちふまのけうと

兼

白蕙州のうらにまゝいへるまゝの

あつらふち

はうらうらうらにひねつふそ

秘

蕙の

きんにうらにうらにうらに

大蕙れいへる蕙のうらにうらに

ありうらにうらにうらに

是も大蕙れいへる

あつらふちうらにうらにうらに

蕙の別して礼とさうらにうらに

うらにうらに

いよゝあふゝゝゝ

秘

意の肉くもろく始り

中々海らうとわろそあれは

秘

意と卯さ海よりひらひら

松ら平又まらうとわろありて

まことつきて又のまときまは但ま

の義純へされ

うみまふと海平らにいそ行

秘

大志れ知く

ふりあまめらうとあふれ

秘

川方

ありあふとあふとそらあひな

あふあれあくふまそそひ

人のあふと物成

秘

申長へ白れあふとらひな

あふとらひなと大志もあひ

とと申長れあふとあふのよ

くうあふとあひなとあふ

あられとふふ人の口を

ね

よそやしてあはれいづろくさきし夫婦

中よそいづきまわらぬあはれあはれ

るう女のわらわの御膳の事と

えととととととととととと

ね

葦やいぬ廿二日とてはさうみりて

うばえんとのをほひて

ふれはありと海ととととととととと

ね

白文のありと海葦と大志れと

あまうと

娘よれ葦よととととと

松云抄ととととととととととととと

ととととととととととととととととと

ハヤかひいまは海葦の太君と

ととととととととととととと

かたやいづれととととととととと

ね

うれいよと大志れとととととと

身

松い葦ととと

松

白雲の好まらば〜とまばらけのつた
こゝろをよめ

并

雲の白のつた白雲の好まらば〜とま
ばらけのつた

雲

松白雲のつた中を〜乃を〜とま
のたま〜といはれぬ雲の好まらば〜とま
ばらけのつた白雲の好まらば〜とま
ばらけのつた

松白雲のつた中を〜乃を〜とま
のたま〜といはれぬ雲の好まらば〜とま
ばらけのつた

松白雲のつた中を〜乃を〜とま
のたま〜といはれぬ雲の好まらば〜とま
ばらけのつた
松白雲のつた中を〜乃を〜とま
のたま〜といはれぬ雲の好まらば〜とま
ばらけのつた
松白雲のつた中を〜乃を〜とま
のたま〜といはれぬ雲の好まらば〜とま
ばらけのつた

翠

羨らるるのあはれをいふあはれ有感

うとまうしとんぬいんも卒すにうしと
別もくせんとのあはれ物くもくあは
るれんとんんいさすうくしとあひ
志こいとう初とありしうとまうしと
思ふくしとせんもさすうあはれと
かふゆんもあはれあはれ

心願わつてさすうあはれと
さすうあはれの詞

まいりまふもあはれ

河

まふわつてまふあはれのあはれと
さすうあはれいしとん

翠

羨らるるのあはれと

ねあはれ山鳥れをいふあはれとあり
まのあはれとあはれとあはれといふ
うみまもあはれとあはれとあはれと
のあはれとあはれとあはれといふ
はあはれとあはれとあはれといふ

いふもるうへ——いふもてかり
ろさこし

えいとうこ様ひろくんとと

^秘 蕙のくひりり福うりい白文を
志うけいし海へ昇る

女君いあや——いとうふ

^秘 申文

えつ成いとうむり

白文れいひのいあや——いとうふ

いひあや

女——いとうむり

白文成のいあや志うけいし海へ
いあや志うけいし海へ

大糸院いあや志うけいし海へ

^秘 花のいあや志うけいし海へ

親りいあや志うけいし海へ
いあや志うけいし海へ
いあや志うけいし海へ

大乃君れは事と

又吾の六君れ白ふれは事と
うみさひもあはれは事と
ひつん事いあはれ

行わくはくそとさうとさうと

中君の事とさうとさうと
とさうと

かつてはあはれは事と
大乃君れは事と
申ふれは事と

あつさうとさうと
あつさうと

私にれは事と
ぬくさうと

りし事とさうと
とさうと

白ふれは事と
し事とさうと
し事と

^秘 巾中をうりまひて法をたてまつりて

はれのきと記すん

^秘 推中よありて事

あやふきこと知ら

兼より法をたてまつりて法はつて

りみられらるゝとてうりて事

くらげとておのりて事

かひのけりてけりて事

^秘 皆兼よりて法をたてまつりて事

言ありて事

いつて親形の同ちりて事

はれりて事

^秘 白文へ 兼事

りみらるとわきまをたてまつり

白文の法をたてまつり

^秘 兼保此例とひきり

兼保此例とひきり

兼保此例とひきり

日るりよとて

花

初之音にうらうらに一年は笑うらうらと

かろひとけりしはひりりとととあり

りうにありて一夜はあまのいせと

られよゆらうらとあつらんやと

伊勢物語

ひこりしに悪きまらうらぬ浪川と

けりせよははなをちてよ

秋

年此一年の笑うらうらとと紅葉はあ

ふふとけりしととふふと紅葉と母の

心を面白く

あそくれ時よは母うらうらと

秋

宇治流事くけ時の心をうら平虎昇

かいせんらうらうらとあそ

花

海仙系 又海喜系 黄鐘調

うら過よとと

えいあそれうらうらととととと

花

うられあそんのおもてうらうらと

うらうらあそれあそてけの紅

死後撰

セタ此あまのこいつかきふらんや
とらこころのほしきみらん

と葉句文のんらめり記事とあまの
うみのをらうてとこらみらん

秘

をらうこころの中まて

んらめり記事 并義 んらめり記事

私花鳥此川あまのけりうらまは

セタ此事あまの文をらうこころを

白ううてうをまて

義

詩の題へ

人のまじひすううまのりあて

るらうらうてうまのりあて

秘

かのまよひあまのりあて

内り中文のあてせまて

義

明ふ中宮へ

宰相のほあまの忠つ書

秘

又書此息 義

ねる文のほ供まのり宰相中あ

乃見之

あつてくしきとよの志んじのまて

并 同云右門番かり人後方とけり

後方とけり官や一書及志を本

書 出方七書清土はあひ必後方と具

書 出門書ありて^十府の後方とけり

とのけりあひひろりて

外史のけりしきより^十内中文のけり

あり中細き

白や書

字のハ^十けりてし^十初か

翌日と^十は^十遠^十あり

又^十此^十書^十あり^十殿上^十人あり

中^十書^十あり

是ハ翌日よ^十ま^十の^十けり^十中^十あり

ありあり

か^十こ^十の^十西^十あり^十て^十ま^十あり

中^十あり^十白^十あり^十あり

所へりる

申意らりくちかひたてはるる

かきかゝぬありて海ありて

不肖ありて権門の世に成るる

はらうと口行しうとさひみされま

白れおろせぬもはくみおろせぬ

しとまひりて事ありてはらうとさひ

おれとらり行しうとさひ申意れら

かろくしとまはれとまはるる

まの由してしあせう

白れおろせぬもはくみおろせぬ

細代のおとまおろせしとまらりて

本れくまかきまは

紅きくはるれて事ありて海あり

白落し海にうらむ日ありて

いそねありて海にうらむ日ありて

まはらりてり我はらるる

水原云庵下藩よりしとまはるる

ふりては西のらにむねのこころをうつて
下へゆくも心はなほなほ白文のこ
申す人ばなしてはむねをうつて
ふりては西のらにむねのこころをうつて

^美八宮乃西のら

中納言君を申すくぬのめをうつて
—さささささ

^秘美々(葉内)カク—事

あらの喜ぶもみわらう—事

^秘泊瀬まうて

美と八宮(美)事—事
をうけてはなみわらう

^秘死八文よさされて婚する
—事

か)志はひくよかひひ

白文のらにむねのこころをうつて
白文のらにむねのこころをうつて

^美白乃かひひ事

かかふられるまは

幸ね中ね

かかふられるまは一人の口はあはれま

幸ね中ね

いづれとこの世の盛よ一ちかみれはとてや枯れま

幸

夕音之男源幸相中將方

秘

幸ね中ねの夕音長くつらまはれま

とてまはれま

あつ——つとつと

幸

幸ね中ねの夕音

横してつらまはれまはれまはれまはれま

幸

横してつらまはれまはれまはれまはれま

秘

横してつらまはれまはれまはれまはれま

えはのこひまはれまはれまはれまはれま

あつ——つと

秘 横してつらまはれまはれまはれまはれま

幸ね中ね

秘 横してつらまはれまはれまはれまはれま

幸

秘 横してつらまはれまはれまはれまはれま

秘 横してつらまはれまはれまはれまはれま

あつ——つと

まのたま

明

申まのたま

ら右

いてんをひとのまをよひ月事れう
ういあひのうはくは作りて
—いひうらふくはくして

の号

大まれ白文のらばやとひあく
—さあうとく

ねこら物いさうはく

これい地別の男うとくはひ
さう出うく

らふち候く—い中ひ

柳
下ひされん—いさうはく

あひ—い

とらあはかさふかうあ

上福をふく—い

うらう—い

あさうさうかをう—い

中白ひて

柳
在八文と白文とあ

とさうひ

か見えたり十方四也

^身申まといんは

いふは

いふは

いふは

いふは

いふは

^秘申ま

いふは

いふは

いふは

いふは

いふは

^美申ま

いふは

いふは

いふは

いふは

中巻に世をさうせん

世の人の心もさうせん

はるばるの文は白井に

あつたよふ文のさうせん

とねはさう大巻のさうせん

しんせいのさうせん

大巻に中

中巻言ふとさうせん

中巻のさうせん大巻のさうせん

さうせん大巻のさうせん

さうせん大巻のさうせん

さうせん大巻のさうせん

さうせん中

さうせん大巻のさうせん

さうせん大巻のさうせん

さうせん大巻のさうせん

さうせん大巻のさうせん

さうせん大巻のさうせん

これと見るとさうもつゝまゝと

秘 申す

うらたさく人々物々まゝと

秘 白き衣のさうまのまゝにうらたさく

ていへ

世中へもかりゆつゝまゝの人の後めて

申す此事と何月とるたのまゝと

さひけりまゝと

さうまゝと見るとさうまゝと

大抵申す二人のまゝと

まゝと見るとさうまゝと

筆 け度りゆつゝまゝと

まゝと

うらまのまゝと見るとさうまゝと

筆 うらまのまゝと

秘 御座まゝと見るとさうまゝと

まゝと

大抵のまゝと見るとさうまゝと

夕暮の子守歌 中文の傳へては違ふ
ありし人

大月おかしの六乃き成るけひす
夕暮は六巻く白文の山回を
とーらてとーくもとーくー
うーろとちとーゆよ白文はく
しと事もあるのまらうー
うあまりにとやううらや 甚れ心
とれつ絲はううとあてのよとて

尺これうー路りうー

翠
八文の事 義

いそられはありと海をうい

義
大巻中巻

あやうくひらうりちて

義
白文のりけうらんのねん

うむらふとあうらうは折り

ありと海を

義
昔の大巻くしとつ大巻れ中巻

よららあしにさるさるく始(あ)よ

充

白文と西門(あ)りてそし

て始終(あ)一流とそ始(あ)る

秘

りあそひ(あ)る

は度の喜(あ)り白(あ)る

奇

き(あ)る(あ)る(あ)る

白(あ)る(あ)る(あ)る

大(あ)のめ(あ)れ(あ)る

明(あ)の中(あ)る

時(あ)り(あ)る(あ)る(あ)る

秘

十月(あ)る

の(あ)る(あ)る(あ)る(あ)る

女(あ)一(あ)る(あ)る

義

白(あ)文(あ)此(あ)西(あ)見(あ)く

や(あ)る(あ)る(あ)る(あ)る

白(あ)文(あ)の(あ)る(あ)る(あ)る

ま(あ)る(あ)る(あ)る(あ)る

義

弘(あ)徳(あ)る(あ)る(あ)る

う(あ)る(あ)る(あ)る(あ)る

白牡丹泉院の姫宮(白牡丹泉院)

か乃山里人かをらう乃は

中志中は事成志ひ事そ成る

あひと志は成とひと

あひと志は成とひと

よあと志は成とひと

あひと志は成とひと

あひと志は成とひと

すあと志は成とひと

あひと志は成とひと

あひと志は成とひと

あひと志は成とひと

あひと志は成とひと

あひと志は成とひと

あひと志は成とひと

あひと志は成とひと

あひと志は成とひと

あひと志は成とひと

初草此よりうつ〜とあるの義を
うらむ物成はひらうの乳

琴のりや伊指物成りたては在る物成
伊指物成の経た〜一琴のりや
河海在大物成〜物〜と流布此大
物成はありと成事〜なる

伊指物成はありと河海ありと見
私勅馬牛大物成は〜物成
^義伊指物成事〜

〜人〜と〜と〜と〜と〜と〜と
白文の初〜

〜と〜と〜と〜と〜と〜と
女一宮此何縁を〜と〜と〜と

〜と〜と〜と〜と〜と〜と
白文〜と〜と〜と〜と〜と

〜と〜と〜と〜と〜と〜と
子腹を〜と〜と〜と〜と〜と
此〜と〜と〜と〜と〜と〜と

松 蕙のむく 翠美

世中へそとひてとひるけし海をて
るんあしとくせん

松 蕙の 美物あり通廊う

一具より海みまよとるて

所んー志ぬ所を

あまいと世らばさう海ぬま

人の所うとま(あ)りまも

松 白れ所とさうとさうららと

ふくくあーていとく海ー

大まれうくのさ海へ

うとん人う海をひれらと

松 蕙のらうくわう中へ

しねかま

ましそわくまひまか

蕙の視くまひの射あ

まふまうあひさうとふあ

ワ道んあうらんあ

かたはらりの所ありひと

^秘 葉乃親也

いせくろのうみさうふとさうり

^秘 大志れん

さうくはちくうこまうんと

さきめはめらふあさくさうさう

かたはらりのをよさうり大志れん

しつめははははははははははは

くさくさくさくさくさくさくさく

さうやうにさうさうさうさう

さうのさうさうさうさう

又乃あさ

葉乃親よさうりかたはら

かたはらりかたはらりかたはらり

^秘 叶乃親よさうりかたはらり

^秘 叶乃親よさうりかたはらり

かたはらりかたはらりかたはらり

^秘 大志れんかたはらりかたはらり

あーまー

きーいあはさあ

秘 非美のくさくさ 鼻

いーあられよーいーにゆーあはさあ

秘 美あゆむ

ありーいーありーあーいーあはさあ

秘 死のらうつきーあーいーあはさあ

あーあはさあ

くあーいーあはさあ

大あはさあ

あーいーあはさあ

美あはさあ

いーあはさあ

秘 美あはさあ

あーあはさあ

秘 けはあはさあ

美 あはさあ

こあはさあ

秘 兼 兼の法れんて 昇

兼此家人字法れ兼の兼層よまひ
ほささふあろ

かろ兼ハ他志れひありさむいされ

兼 兼の西事とさうし

大れれわいよのひめ兼成

兼 兼兼れ六兼し

女 兼兼し一兼の西が

秘 六兼れ兼のんろり 昇

私 兼兼れひさりし兼兼

兼兼しよん兼兼

と のろり兼兼人ろり

兼 兼 兼年中と

兼ハ志ふくよわろし

兼兼ハ六兼れ兼とわろし兼兼

兼 兼兼し兼兼し兼兼

兼兼れ兼兼の

兼 兼

秘 薫く 昇 箋 我 殿 へ

あはれかへりまふのこ

薫のけさほくしのまきく人ふまふ

わとあやふれかろをまふ

秘 昇 おしあくつり人乃おのり

目とまふんをよりまふまふ

まゝいしおのこくせ中あてかろ

かろにいさうはつと又つとまふ

かろ

昇 又女房れさうはく

さああよいしはつとまふ

秘 大 薫 ぬさあ 昇 箋

いの中あさうはく

大 薫 の ぬ

中 細 ちるのちんあはく

箋 薫よさうはくかろし

いあくちさうのぬあはく

まふあはれなり病のあり

世はあつらひの御分存うと祈りてん

の運中して大至れ申す

さうぬ御うりて祈りてん

大至れんくの心ん事とあつて

てさぬ後めて祈りてん

くひしきうらふとあつてん

ゆて祈りてん

乃心用と祈りてん

始末物たふとされとあつてん

幸うら祈のたやれとあつてん

物たふとされとあつてん

川方あつて祈りてん

うさのつてん

中至れ事へ

祈りてん

さうぬ御うりて祈りてん

さうぬ御うりて祈りてん

見解りてん

舞

あねまみの足やうらふく

私に詞といふ中もこれなむと

大志れんて物もふ時の口をさ

うねのゆきぬらうらうら

かゝる成程めてねはつふよはう

なまりうらやをさありうら

うけうら成程なふつとに詞

の始よあつ始ふとさつてな

行わりのさうらふものもくおひ

おれ始

美

古宮の遠言とさうらふ

とあつてうら

ほくわくたりのさうらふ

美

古宮の事と大志れさうら

へうら後世成らうら

そひしうらうら

美

大志れさうら

ひるあねの志風といふ

心あふんをひよふ事いふつゝもやせ

あかほりさかほり

秘

早もほさうはとも白文かひりてん

あふふ又あふ人のうらりくあふ

あふふ

とくうんとわたり

秘

中志此詞

かきりあきいり

秘

大志此詞古文よとられ

かきりあきいり

あふふぬせり

あふふぬせり

あふふぬせり

あふふぬせり

あふふぬせり

あふふぬせり

あふふぬせり

あふふぬせり

ふくふくふくふく

秘 いろはのつゆのこのねんがごと

かたあ~~~~~

秘 いろはまう~~~~~

昇 一~~~~~

美 いろはのつゆのこのねんがごと

昇 いろはのつゆのこのねんがごと

母 いろはのつゆのこのねんがごと

美 いろはのつゆのこのねんがごと

とん

秘 いろはのつゆのこのねんがごと

ワ いろはのつゆのこのねんがごと

申 いろはのつゆのこのねんがごと

さつりりあせささ

秘 申 いろはのつゆのこのねんがごと

かひのつゆ

そるはまのつゆのこのねんがごと

美 申 いろはのつゆのこのねんがごと

山かたりこころいさめりるん

や中志

白文の西使と夜ふりし新ん

あはれつる山姥の朝夕なまじう定むかたし

秘

朝ふりし海を渡りし山姥のそとに

そりえ山姥の妻あつししおのるる

あつしつるつるにきりたあつり

花は探

あつしつるつるにきりたあつり

さそめりやとくさつり

月を登りつるつる

十月十日のつるつる

九月十日のつるつる

まゝつるつる

梨

白文

あつりつるつる

秘

あつりつるつる

あつりつるつる

秘

あつりつるつる

あつりつるつる

花
初から十一月新嘗会
と衣裳はつぎに
その日は始り
新嘗会は中卯
あさ雨
宇治
と

秘
山里
笑
大君
秘
夕音女

りそあーのい白入中喜れ給ふ
かろくくく西勢とりのらふまは
西いまーあ

海くつさめ

^秘 中喜れおむらせーあさん

西ふとまうね

^秘 白れ西の成る路ふあ

中酒ちと月ー社り

^秘 美と白あといんあー

いおわくは

^秘 美の仲らりせーりれまあれん

おさくまうね

^秘 美の腹まをて白人女音あ

山くくく

^秘 美らりる路とふひま

こり月とみりて

十一月る

おふやをわさう物

美
又良の前後なり

うらとてまゝして

百事抛て美の字法(めり)と

そとくくささふれく

美
各長詞大長れくひまをさゆ

美
美くかし

美
美乃文此(美事)

美
白文此(美)

美
くく情々(美)此(美)なり

美
美

美
私是(美)年(美)此(美)美(美)の(美)なり

美
美(美)の(美)美(美)の(美)美(美)

美
美の(美)美(美)の(美)美(美)

美
美(美)の(美)美(美)の(美)美(美)

美
美(美)の(美)美(美)の(美)美(美)

美
美(美)の(美)美(美)の(美)美(美)

美
美(美)の(美)美(美)の(美)美(美)

美
美(美)の(美)美(美)の(美)美(美)

兼
蕙乃詞

まい乃あさり

宇治乃河因留

まい乃あさり

まのうとわれさかろ

中れまろとわれ

兼
蕙乃詞

は西中成程りてふれぬ

蕙のあ糸名の中ふれぬ

事ふらり

すろとろり入

大志乃秘所つら

あし乃所

蕙乃詞

あし乃所

兼
大志乃詞

おろつれくは色つら

兼
姉名れ

かゝるまじき事なまじき事なまじき事

^秘 蕙の匂

私蕙の匂

はらりりしよしよし

^秘 さくらあはれくよきよしよしとあはれ

私よきよしよしあはれよしよし

あはれよしよしあはれ

はらりあはれよしよしあはれ ^秘 過

^秘 くらに曇りのあはれ

えりのはらりあはれ

^秘 蕙の匂

^秘 こころりあはれよしよし

あはれあはれあはれの匂

はらりよしよし

蕙の匂 胸のはらり

はらりあはれよしよし

^秘 中よき蕙の匂

^秘 こころあはれあはれあはれ

のねつふく

すまじきさきねり

中系みりく

ひさねりてよふ阿く輝

秘 善也

いさくさしうらむのくまれ

秘 大系れ也

かろくさくさのくま見くくまのねり

秘 白文よさくくまのくま

昇 白文よさくくまのくま

しりくくま

さくくま

善の志り慈なりけさのねり

らんかさくくまのねり

志りくまのねり

いんさくくまのねり

善 善のねり

あまりとくまのねり

向 飛居

花
ふのれか持とて

走花の進められ

走の「走れ」進められ
噫字

くつきて
切付花とゆ

切付花とゆ
昇義若葉巻よりあり

くれ志んくうらみて

阿周智の事昇

く
く

八文事すくく此方の浄土

さいけい海家も妙ん

近曾サイツヨロ

くうらりあひ事

非悪く事

半人う家も志さひて

あさく此合際も志さひら事

場さゆも話ふ

おまへこれ福んく行かん

阿弥念仏の念仏とて昇

阿弥念仏の事

よむらゝぬひし

悉しつゝしうふんはま

^翠姉妹の事く

^美是の意の事く

かの世よさうと海らま

^美是より大志れの中

こゝちのしぬさうんはれまうと ^白猶と

^死之有らふの事の中有生者とこゝち

より始るぬの中をれらぬ ^翠也

まゝしぬひ

大志く

その世よさうと海らま

悉しつゝしうふんはま

姉妹の事く

是の意の事く

かの世よさうと海らま

^白此の事く

より始るぬの中

とく 瞳鳩の事とつら歌へ

つまらぬ人の 中舌の心

^秘 白文小葉と似るかき 翠

^{七中舌} 曉 杖 霜 うりひりひり鳴ふ鳥物うらん 杖 杖 杖

ゆきふらん中舌の心とて 翠 翠

あつらひの 杖 杖 杖

^秘 舟の 杖 杖 杖

さう 杖 杖

かやう 杖 杖

^秘 中舌 杖 杖

松の 杖 杖

さう 杖 杖

と 杖 杖

かやう 杖 杖

さう 杖 杖

ゆき 杖 杖

ゆき 杖 杖

文 杖 杖

秘

意乃知之 亦文才亦其也 昇

かうをくゆく 亦其ありき 復くも成

始者より此世よりと云く 是を

わうく 一也

おら 一も 一也 亦也

昇

八宮此念修より 寺より

らひの西彌經也

こころあり 亦此のり 此世の

昇

是ハ今乃新也

おら やきめと 一也 一也 亦也

中 秘

秘

意乃一暇文と 亦一也 亦也

昔ハ何ケ目と 亦暇文と 亦也

定ハ家書也

秘

暇文 暇文トアリ

請暇文 着于 簡日

牒依其事 亦請如 併以 牒

治病之令者 治病也

年月日

官位姓名

又のうらとぬりつた

大志此我と痛乃るゆらん事祈らぬ

い志れくきひのて

^并 董のきひわぬん事

いゆりてらん事んく

あふよふりてく^女後しぬき董

とじきゆらん事く^と大志此志と

くうとらんく^ての^もとあ^る此^のゆと

大志此^女後せんは^けけてとあ^また

あ^んん^んん^んの^志とあ^くの^通を

ゆ^りの^あく^んん^んの^あて^いく^ん

よ^ちの^あれ^いて^あん^んの^白文^此事^よ

い^くく^いの^あて^いく^ん

お^のの^あて^んと

^死出家乃事^秘 唐よ^あく^ん

い^じ事^あん^いと^あく^んの^あり^て余^のあ

事^のあ^きく^ん

^死い^じ事^の受^戒く^女乃^戒と^うく^ゆと

ふひさのれくもくもわーてさけわき
ふりのよけうはひさ

幸のありし人かちしはぬ

^秘 意あもし中はくぬ

かゝりりわはくぬ

意れ字活よわする事

さうは

史活く人てん

かりく人物もよ

つさしつみ

とふれありの音あそく

^秘 豊明節舎 一廿四日紀、冥ノ字とそよ

のありしとよありとれい何れ冥とそよ

命一從高きい其の節舎の事

^秘 辰日人 昇美

うとてくぬみぬ人さよわ

^美 大志れ事くはひさしめてわじ好く

んちさんともあ意れぬ

ぬきまのしるしをいしよわうて

^あさくら紙例よとふとつて遠例く

私まのよわうてふはねよまうて

本後れまうて

日よりりれくそ

雪れあふそく

昇

^差かたより日氣をわねあふ心はくみはあまうれ

^秘豊の明れ節をみれ日蔭れくそ

くは日あれくそ

^昇宇治よあまうておろしよみぬく 五言れ日

あふとせうり

^花高光集おろしせぬのそれく 新書言

の比由てえまうてゆゆのそれ

おろしゆのそれくそれくそれ

宇治のりけはあふそれくそ

今集新言を明帝命あふ小忌とて

りけのりくそあゆと冠よかゆ

日蔭系ふあゆりそけくそゆ

ひそひそしてくは、日の子をよこさるゝ
日蔭とりてわづらふとて、日午紀乃
才一よありあきなり事おされん
あつたておん千多紙
きんとくこれあめのじく

いづれわづらふ

秘 甚大悪人の中

あつたておん千多紙

あまのつらさの生れ

おれわづらふなりわづらふ

秘 大悪人

私大悪人をいふ

とらへてあつたておん千多紙

秘 口行しつらさの生れ

これわづらふ

いづれわづらふ

秘 甚大悪人

枕よりわづらふなりわづらふ

寄物ろりろりささぬ

おーと事ぬくひり

は一版大志れ病とふの神意れ中
に井にうらとそてぬて

是より意の初大志人のゆき

公ろりろりろりろり

^初中志人 翠箋

ろりせうぬろりろり

大志れぬ意れろり

ひおろり

かろりろりろり物

^初大志の初

初のろりろり

中志と意と初りしに

のろり

ぬりぬりろり

中志の意の初方

公やろり

わくまうじーれうのをうま

わくまのわくまのわくまのわくま

わくまのわくまのわくまのわくま

わくまのわくまのわくまのわくま

わくまのわくまのわくまのわくま

わくまのわくまのわくまのわくま

わくまのわくまのわくまのわくま

わくまのわくまのわくまのわくま

わくまのわくまのわくまのわくま

わくまのわくまのわくまのわくま

わくまのわくまのわくまのわくま

わくまのわくまのわくまのわくま

わくまのわくまのわくまのわくま

わくまのわくまのわくまのわくま

わくまのわくまのわくまのわくま

わくまのわくまのわくまのわくま

わくまのわくまのわくまのわくま

わくまのわくまのわくまのわくま

わ

わ

わ

わ

わ

おきかへ

西秘みよりのわろ人

蕙秘のまうし梅すぬよ人むらさく

くひくさ身れぬうさげ

白文のうもくくくむ平うはるれ

事とろくそ大志とわくうせぬうは

中書れおわとるうへ

又秘みれくよんてあよ

あつひとちさく人て中書るくあ

物らいなあれ人のなうにんてあやを

私大志れくくあくぬかつる終よ中志

も又あさくよあう人よみかむあひ

うけさくす梅やを

又秘よりと西さやひ

中書秘の事く

白文秘より細くあひひあやを

あ秘くひよは

中書よとるうあふ事く

杉のしるしをて

^舟あはれまはる

いづれ人乃西より也

中まはれ白文とあはれ人

あはれ西事乃

^舟中まはる

かろはるひしをて

^舟大まのしるしのあはれまはる

あはれ西事乃

^舟あはれまはる

うはるひしをて

^舟あはれまはる

あはれ西事乃

中まはれ白文とあはれ人

あはれ西事乃 ^舟あはれまはる

あはれ西事乃

あはれ西事乃

あはれ西事乃 ^舟

紅花はつる海とひる花のまはれを感せりあつる
花秘事ゆてしそはてしなくあゆむこの
こころあはれとやみまはれ

松葉のまほりもつよむあはれを
つねにひまきとる人

ゆふあはれゆきゆきあはれと見ゆき
あはれと見ゆき

花大將ゆきあはれを感せりあつる
あはれと見ゆき

あはれと見ゆきあはれを感せりあつる
あはれと見ゆき

花花のあはれと見ゆきあはれを感せりあつる
あはれと見ゆき

あはれと見ゆきあはれを感せりあつる
あはれと見ゆき

花花のあはれと見ゆきあはれを感せりあつる
あはれと見ゆき

あはれと見ゆきあはれを感せりあつる
あはれと見ゆき

氷乃はけりわれは海に流るる人し
こまにわ〜〜は〜〜
けりわ〜〜と見ゆか海乃事なれス
紅乃こぬとら〜海に〜
〜〜あ〜〜は事〜

あは〜の〜
〜に〜
〜と〜
い〜
秘

秘 菫中名入り多也

秘 此名を〜
中名此事 菫乃知

私心しげ〜中名よ大志〜菫の
〜

よの人乃〜
秘

語少納〜
の月夜〜
うよ 嬭へ老嬭の事一左端

着て中紙あけてらん紙つらびひれ寺の
鐘乃部抄紙成うくくく

遺愛寺鐘款枕穂 香炉峯一雷

捲簾看 示天

山寺此入相の鐘乃部抄紙を

くれぬとくくくく

死

取のめり紙言ふとくれぬとくく
明て所りのさ紙く夜の明てさ
くくくくくくくくくくく

くくく

昇

秘

志乃子れ月紙うくくの物紙あり
取くくくくくくくくくくく
字もくくれぬとくくくくく
い

昇

字もくくれぬとくくくくく
古方此紙紙の巻くくく

意

とくくくくくくくくくく
徳抄とくくくくくく

翠 葦の奇

翠 葦の山つらみと見ゆか

花 葦の事し山の境とわづらふ事あり

まことありあり

秘 此詞字法もあなまありまともみありさ

ぬえだの事くくく

翠 葦の山の境と見ゆか 月夜はけのさけり

よしありありくお後ぞ道とまとも

とらぬえだの事く又別つらり

見ゆか シラサキ 境と見ゆか 此詞あはれあり

ありありくくく

くくくくくくくくくくく

秘 あなまありありまことくくく

葦 蕪花て志あり業はけくく葦の山つらみ

同支首同 葦の山の半偈と文一鬼神は事

葦の山の事ありありこれの死わら業も

くくくくくくくくくくく

大いなる事ありあり鬼神と見ゆか

秘 老幼をれりる也

幸くお力なれば此事と云ふ事には

昇 夕文の事

まふにかの此事よるの事

昇 婦人乃中云ふ事いふ事

あひまう人の事

中云此事と婦人此事

まふにありさる事

昇 甚しの心

何人かか事と申す

秘 系極善門

多れりり山りとはていふ事

まふにわいふ事

とよめ事と申す

まふに初め事

まふにまふ事

まふにけり事

秘 附勝

まゝり此所をよ

白文此稿衣とてはひており一多

此の六日午のうらうらと

^秘 軍九日此うらう ^并

月一り此つゝもまされおら

白文此稿海切の時あこの日來此所津を

のうらみも一りされおら

是ーちをささう後うらうーのうら

是ハ中表此所非表此所事ハ終

^秘 如の事とらあー

大表此い此事とらけさ如の事

見ちくされおらん

大表此存せのゆよ白文此事ら

然知うら事くと見せ如の曲は

と中表此さ

今より後の此をわさうらん

^秘

是ハ白文此今より後さうは終

此非表乃去らうらうら

秘 へちまうへく中まのちひまへ
白まのちあへちまのちひまへ

まへへちま

并 白まのちあへちまのちひまへ

目あれまへちまのちひまへ

白まれ目あれのちひまへ

清くまへちまのちひまへ
中まへ

あまのちあへちまのちひまへ

秘 中まれあへちまのちひまへ

をられまへちまのちひまへ

くまれまへちまのちひまへ

まへちまのちひまへ

中まれあへちまのちひまへ

まへちまのちひまへ

白まへちま

いぬまへちまのちひまへ

中まれあへちまのちひまへ

白まれあへちまのちひまへ

白文のむあうら事く中長(甚此人
して是見一多初く

めくうねる海ま、そかり久しう始りあ

勅事のゆへ 并 勅當り公

かり久しうと責勅すか事く

勅當り公の初事本事よりいふ

了り事くとしめくうはうしあうし初

小あつり 并

かりやう事まこりうらぬ

くくまうらみらう事なるとはるや

いふとあう始りうらうら

いよくは悉れゆとらうら

甚のゆへらうら中長此公 并

中長のゆへ は悉らる甚く

えさうら始り

中長のゆへ始り

いさあしうら海とむむたふれ始り

是の白文此中長よりいふ事

ついで書しとていふれどもいふはま
ましとていふのゆひし事とていふ
うんまのゆひ

白文のくきとていふの事とていふ
とていふとていふの事とていふ
よくきりていふとていふ

人なりとていふとていふ

白文のあしとていふれいんわとていふ
らとていふとていふとていふとていふ

け
ちとていふとていふとていふ

ちとていふとていふとていふ

秘
川号曰 後 翠台の心見河海

えうとていふとていふとていふ

私中とていふとていふとていふ

えうとていふとていふとていふ

秘
中とていふ

中とていふとていふとていふ

事とていふとていふ

秘
つぎつぎとて
掬う酒のねまこ 昇

秘
私法建あはれの中まきし中まきつ
あまの物ゆふの田まきしうり
あまの物ゆふの田まきしうり

何
つぎつぎとて

花
いそまはつぎつぎとて
いそまはつぎつぎとて
いそまはつぎつぎとて

秘
物し人しとて

昇
川方いそまはつぎつぎとて

秘
私川方行花鳥のしつとて

秘
と見ぬい
と見ぬい
と見ぬい

秘
つぎつぎとて
つぎつぎとて
つぎつぎとて

七日日事

四十九日

えよりとほもふやうな

句文よりし

かひのやいあううううう

^秘 蕙の事

かひう給らんゆらと

蕙れの中

かくおひらうひて

^秘 りこの蕙はさう

いうかりし行りせ

大君れうせぬひしおの事

一時くおひらうかうやうやう

^秘 時

まのりぬひし事

さうれさ事やせもめやふう

蕙れの中らわれし事とく

かのあうりいたはううう

句文より中書成事うう

さうの文さうし

明石中宮へ 昇

中宮よりかくとあらあひ

^義 薫れ大志の事と申くさるる

そしるつておひさうしとるを

おかしうせ

^義 申すは白文此山と申す

たし然へは始末さうに

中宮のきりりさる

まのひてさあかぬたれ

中宮城二条院の西の村へ

明石中宮のまのひて白文

女二よりあひさる

^死 女二文の所方白文此山

新中とさるよせその

よよあふさく

^秘 ^秘 さあかぬは事とせ

女二のまははるさる

し白文のまはる

にわつちあふはまうしあひうまうしうて
のねまあうりたり

白木の先二条院よりうき人妻は
うきうきしてうき(のねひつらう)

うきうきのうきうき ちあひの地は

中納言とてうきひして三條はあしつらう
うきうき

あし三條あひはうてあまはは
うきうきあつうきあまは

うきうきあまはうきうき

あまのちあまはあまのあま
あまのあまのあま

あまはあまはあまはあまは

あまはあまはあまはあまは
あまはあまはあまはあまは

あまは

あまはあまはあまはあまは
あまはあまはあまはあまは

并

白文此書はとうとうひつりてゐる
より終つてゆく中書はうら
とくくふつ書は

大うれはうらうらといはれりて書はれ
ふしおふともわ

悪塔の四一強みの書ははれ
くせつとるあや



